

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401665		
法人名	有限会社 メティス		
事業所名	グループホーム あさひの杜		
所在地	札幌市手稲区手稲本町2条2丁目4番24号		
自己評価作成日	平成23年2月10日	評価結果市町村受理日	平成23年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1、家庭的な雰囲気や大切に生活をして、皆と楽しくゆったり静かに暮らしている。</p> <p>2、小規模ホームであり、認知症グループホームの原点を守り、その人らしく穏やかに暮らせるよう支援理念を持っている。</p>

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170401665&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム あさひの杜」は、駅から近く生活に便利な市街地に立地しており、道路から少し奥まった場所にあるため静かな環境が保たれている。周囲にある理髪店、衣料品店、小売店や大型店舗などの協力を得て、利用者を地域で見守る環境作りが為されている。大きな庭をもつ民家を改造した2階建てで、少人数の利用者が生活しているホームは家庭的な造りで、段差への注意や階段の昇降などが自立への生活に繋がっている。また居室は広く、間取りの違いを有効に活用し過ごしやすい空間となっている。運営者は小規模ホームとしての基本に立ち、認知症を持ちながらもその人らしい自由な暮らしが可能になるよう常に検証し指導している。職員も日常的にケアについて話し合い、利用者との親しい関係を保ちながらも言葉や声の調子に注意し、利用者の行動やプライバシーに配慮しながら丁寧な対応を心掛けている。利用者は隣の地域会館での催しや行事に参加し、町内会の花壇作り、廃品回収、公園のゴミ拾いを手伝う一方、近隣の人からも花や野菜の苗をもらうなどの双方向的な交流の中で穏やかに過ごしている。</p>

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り、理念を基にすべての介護が有ると言う事で実践している。	利用者の尊厳と自由な生活を支えるという理念に沿って、会議や申し送りなどで日々のケアを確認している。それらを基にして、地域密着型サービスの視点を盛り込んだケアの目標作りを検討しているところである。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、日常的に行事等に参加交流している。	町内会や老人会の敬老会、夏祭り、映画会に参加し、また花壇作り、廃品回収、公園のゴミ拾いも手伝っている。近隣の人から花や野菜の苗をもらうなどの身近な交流もある。散歩中に公園で保育所児童と会話を交わしているが、相互に行き来する交流までには至っていない。	行事を通して、近くの保育所や幼稚園の児童と相互訪問ができるような交流の機会作りに期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会、老人会等に参加し、地域の人に理解、協力してもらっている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では必ず生活状況を報告又、カンファ状況を報告し、意見をもらい次の介護につなげている。	2ヶ月ごとに運営推進会議をもち、事業所の運営状況、行事、防火訓練などの報告の他に、外部評価の結果も報告している。会議で出された意見を参考にして、散歩や買い物などの外出支援に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課、包括支援センターと連絡を取り合い向上できるよう努めている。	運営者は市や区に頻繁に出向き、関係作りに努めている。生活保護担当者や介護保険の担当者に相談や確認する中で情報を交換している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居時、契約項目等でも説明し職員もその内容を知っており、実践している。	利用開始時に身体拘束を行わない方針を文書で説明し、同意を得ている。また危険上やむを得ない身体拘束の対応についても説明し、同意書を作成している。職員は言葉かけの声のトーンにも注意し、利用者の自由を抑制した声かけになっていないかを会議などで確認している。日中は玄関に鍵をかけないで見守っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	帰宅時の家族との状況報告の中から虐待等の言動に注意しており職員間もお互いに努力している。		

グループホーム あさひの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利等が確立されている認知症の人々の立場を話し合い、支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解、納得を図っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい環境を作り、気軽に言えるようにしており、運営に反映させている。	家族の来訪時には報告の中で意見を聞く姿勢で対応しているが特に苦情などはない。毎月来訪する家族は限られており、今年度は家族会を行わなかったため、日頃感じている意見などを表出できるような方法を検討中である。	家族の意見を聞くためにアンケート調査を検討中とのことなので、些細な意見をも運営に活かせるような取り組みに期待したい。
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日常的に、意見や提案を取り入れ実行している。	日常的に職員間で業務改善やケアについて話し合っており、毎月の会議や日々の申し送りの中で対応について討議し実行に移している。運営者は職員の希望を十分に取り入れて勤務表を調整し、業務に集中できる環境を整えている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室や会議室等を別にもうけ環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践者研修、管理者研修等、社外研修受講させている。他病院の認知症研修に参加させている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他GH、老健施設との交流を図り、取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に出来る限り情報を得て早期に解決できるよう努めている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>必ず、要望事項・困っている事を傾聴し、結果等も報告している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>いろんなサービスの可能性を探り対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に作業したり共に生活できるよう関係をもって</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>本人と家族が一丸となれるよう、職員も支えられるよう心がけている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>人と場所には行けないが、友人知人親族等において 関係が途切れないようにしている。</p>	<p>定期的に訪れる知人などの来訪には、おやつを出して一緒に楽しめるように配慮している。家族の協力で、馴染みの美容室、買い物、親戚宅に出かける利用者もいる。また手紙を出すことを手伝ったり電話を取り次いだりして、今までの関係が続けられるように支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>共有の場で、イベントやトレーニング等を初め、支え合えるようにしている。</p>		

グループホーム あさひの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、病院及びサービスの紹介等も行っており付き合いが出来る。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	すべて本人本位に努力している。	利用開始時に暮らしの情報をアセスメントし、新しい情報を蓄積する中で、利用者の意向を介護計画に反映させている。会話の中で意向を引き出すように問いかけ、その思いを職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から傾聴し把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活、過ごし方、心身状態も把握し医師とも相談し努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察から、意見、アイデアを反映した計画を作成している。	新規の介護計画は、3ヶ月後、6ヶ月後に見直し、その後状態が安定している場合は、1年を定期見直しとしている。毎月の会議で話し合った内容をモニタリング表に記録し、ケアに反映させている。本人・家族の意向を入れた介護計画に同意が得られている。	毎月会議で話し合った利用者の状態を介護計画にも反映できるように、見直し時期の短縮についても検討を期待したい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	期間に応じた見直しは当然、必要になれば状況に応じて見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、要望や状態において柔軟な支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理・美容、スーパー、衣料品店を通じ利用している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十分な体制をとっている。担当医も支援し、専門医は担当医との連携で十分な支援が出来る。	協力病院の内科医、歯科医の往診が2週に1回ずつあり、その他専門的な治療が必要な時は、以前からのかかりつけ医を受診している。受診の際は職員が同行し、それぞれの主治医と連携を密にし、受診内容を個人別のファイルに記録している。	

グループホーム あさひの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必ず、医師に報告し支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係とは、十分連携が取れている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医との連携で家族と話し合いながら支援している。	利用契約時に重度化した場合の対応方針と終末期の生活支援を文書で説明し同意を得ている。入院治療や事業所での生活が困難になった際には、主治医の判断の下に終末期の方針を家族と話し合い、覚書で意向を確認し、連携を取りながら病院や施設への住み替えを支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との交流の中で体制が出来ている。	マニュアルに沿って昼夜を想定した火災避難訓練を行い、実際の災害時には町内会会長の指揮で協力が得られている。近日中にスプリンクラーを取り付け、次回の避難訓練には消防署の立会いで夜間を想定している。職員の救急救命訓練の受講も今年度中に予定している。	実際の避難訓練時には近隣の方の参加を得ての実施に期待したい。また、火災以外の地震災害にも備えて、職員間でシミュレーションを行い、備蓄などの検討にも期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねる事の無いよう接している。	利用者の呼びかけは「さん」付けを基本としており、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけをしている。面会簿も一覧式から単票式に変更済みである。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の思いを汲み取り、察知し自己決定出来るようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の希望を大切にしているが、沿えないときもある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	望むよう対応している。		

グループホーム あさひの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる事は差があるが、全員で行っている。	利用者と職員が同じ食事を摂っており、利用者の能力に応じて下ごしらえや食器拭きなどを手伝っている。食事前に口の体操をして飲み込み能力の維持に努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	絶えずチェック、記帳し習慣に応じた支援をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必ず、実施している。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のパターンや習慣を把握しており支援している。	介護記録に利用者の排泄記録を取り、パターンを把握しながら誘導し自立に繋げている。利用者になるべく布の下着を使用できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェックし、個々の対応を取っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には週2回であるが、状況に応じて対応している。	週2回、午前中の時間帯で全員が入浴しており、汚れや汗が気になる場合は回数を増やしている。入浴の長さも利用者の好みに合わせている。入浴拒否のある利用者はほとんどいない。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人中心の休息、安眠をとっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解しており、変化等があったら医師とも連絡取り合い支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの喜びを生活の中に、取り入れている。		

グループホーム あさひの杜

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り沿うようにしている。散歩、買い物、見学とか又、家族にも報告し実施している。	近くの公園を散歩したり、食材を買いにスーパーと一緒に出かけている。花見や動物園、回転寿司での食事会など外出行事も定期的に行っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理する人はいない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等で支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的雰囲気大切に、季節感をとり入れ居心地良くしている。	民家改築型の建物であり、家庭的な造りで家具や調度品、壁の飾りなど全てが馴染みやすいものである。居心地よく過ごせるよう温度や湿度も調整されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに生活しているが、一人になれる空間は居室だけである。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品々を利用してもらい、居心地良く過ごせるよう支援している。	居室には利用者が馴染みの家具や生活用品などを自由に持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁も利用者の好みでカレンダーなどを自由に飾ることができている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差、階段もあるが見守りして元来の身体能力を引き出すよう支援している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム あさひの杜

作成日：平成 23年 3月 20日

市町村受理日：平成 23年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	幼稚園、老人会の交流不足がみ。	幼稚園、老人会の町内会行事に参加、交流する。	幼稚園児との行事参加、ホームへの来所交流。町内会、老人会も同様実施する。	6ヶ月
2	10	不足がみ。	数多く開催する。	開催もさることながらアンケート形式又質問形式の要網を作り、密接化を図り連携をとる。	3ヶ月
3	26	モニタリング不足気味。計画見直し不足気味。	介護計画は3ヶ月、6ヶ月、1年又随時実施。	モニタリングの充実を図る。定例会議にて必ず提案、検証し充実させる。	順次 1年
4	35	具体性が不足気味(役割分担等)	防災害の組織化(図)を明確化する(具体的に)消防署との連携を蜜にする。	町内会会議等で取上げるよう申請する。日頃から町内会の方々と人間関係を作りホームの内容を告知し交流する。消防署に於いては訓練に参加依頼を多くする。	3ヶ月
5	49	家族を含めた活動不足。	家族同伴及び、依頼し多くする。	便り“あさひの杜”を利用し、数多く取上げ実例を紹介し 又、参加を依頼する(行事等を含めて)	3ヶ月

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。